

令和元年(2019年)10月23日(水曜日)

湧水

三島駅南口東街区再開発

JR三島駅南口で広域健康医療拠点やマンションなどの建設が計画される東街区再開発事業は、総事業費200億円を超える巨大プロジェクト。市の負担は土地取得額も含めて56億円に上り、三島の顔とも言える駅前将来像に多くの市民が注目する。推進派、反対派の双方がさまざまな思いを抱き、時に激しい議論が起きるのも当然だが、町の未来を左右する重要な計画だからこそ市民が冷静に向き合いた

い。
9月末に開かれた再開発事業の市民説明会では、市当局が事業の進捗（しんちよく）状況や今後の見通しを明らかにした。タワー棟の高さを99・5メートルから約90メートルに下げ、総事業費は9億円、市負担額は5億円それぞれ削減する新計画案が示された。このほか、高層棟の建設に伴う地下水への影響調査、駅前周辺の渋滞見通しを示した交通解析など、市民の関心が高い項目について解説した。

ただ、質疑応答では冷静に意見を述べて質問する市民がいた一方、感情

街の未来 冷静な議論を

的に声を荒らげる住民も見られた。市を威圧的に非難したり、考えが異なる人を個人的に批判したり…。質問者にヤジが飛び、それに対して暴言で返す場面もあった。地権者もやり玉に挙がるなど、建設的とは言えない意見が飛び交ったのは残念だった。

東街区の再開発事業は昨年12月の市長選で最大の争点となり、推進派の豊岡武士市長が当選した。得票数は敗れた反対派候補2人の合計を下回ったとはいえ、市が現職の公約実現に向けて事業を進めるのは自然の流れだ。駅前の高層ビル建設に否定的な川勝平太知事の見解にも耳目が向きがちだが、最後に決めるのは三島の住民でなくてはならない。

だからこそ、個人批判や考えを押しつけることなく冷静に考え、互いの意見に耳を傾けてもらいたい。推進派、反対派ともに町を良くしたい思いは同じはず。市民が二分した状態で町づくりは難しくなる。十分に議論を尽くした上で決まった結果は、グノーサイドで受け止められるような関係でありたい。

(三島支局・金野真仁)